

## 第7回世界水フォーラム デイリー速報 最終号



### 1、ネパールの団体に京都世界水大賞

草の根レベルで飲み水や衛生環境の改善に尽力する団体を称える賞である「京都世界水大賞」にネパールの ENPHO (Environment and Public Health Organization)が、37 カ国 110 の応募団体の中から選ばれました。

17 日の第 7 回世界水フォーラムの閉会式の中で行われた授賞式は、同賞の主催者である日本水フォーラムの進行により執り行われました。授賞式では、ENPHO 代表のスマン・クマール・シャクヤカ氏(Dr. Suman Kumar Shakya)に、同賞の協賛団体機関の代表として登壇した島津製作所の中本晃社長から大賞賞金 200 万円が手渡されました。

ENPHO は、環境に配慮した社会の創造をビジョンに掲げ、1990 年に設立。環境と公衆衛生の分野において適正な技術の開発と促進を目指した活動を展開し、政府認定の研究所を有し、エコサントイレや雨水貯留タンク、バイオサンドフィルターなどの技術促進を行っています。

### 最終号

1. ネパールの団体に京都世界水大賞
  2. DGIC に署名採択し閉幕 次回はブラジルで
  3. スマート技術で“私たちの水”へ 科学技術プロセスクロージング
  4. 第7回世界水フォーラム これからの視点
  5. 水災害の防災・減災へロードマップ案を提示
- 特集 1、今日の“人”

## 2. DGIC に署名採択し閉幕。 次回はブラジルで



閉会式会場内の様子

“Water for Our Future”のスローガンのもと、170 の国と地域から約 22,000 人が参加した第 7 回世界水フォーラムは 17 日、6 日間のプログラムを全て終え、閉幕しました。

同フォーラムで発表されたコミットメントの実行をモニタリングする枠組みとして、大邱広域市・一慶尚北道実行コミットメント(DGIC)が多数の関係者により署名され、実行を確保し、ポスト国連ミレニアム開発目標(MDGs)へ水分野の関与を強力に推進していくことなど 5 つの行動指針が示されました。 次回の世界水フォーラムは平成 30 年(2018 年)にブラジルで開催されます。

## 3. スマート技術で“私たちの水”へ 科学技術プロセスクロージング



科学技術プロセス(STP)のクロージングセッションが 17 日に開かれ、議論してきた五つの論点——効率的な水のマネジメント、上下水道システムからの資源回収、水と自然災害、水のためのスマートテクノロジー、水に関する生態系サービスの理解と管理——がそれぞれ取りまとめられました。

このうち「水のためのスマートテクノロジー」では、効率性向上とコスト削減のため、安定・安全な水供給のため、そしてすべての人に平等な“私たちの水”であるために、スマートテクノロジーが必要だと結論付けました。「水と自然災害」では、リモートセンシングと地理

情報システムの改善を進めていく、との報告がありました。

全体を通じて、気候変動や災害など地球環境の変化への対応、また水が生み出される地球環境の保全を目的とした、予測や分析、管理におけるスマートテクノロジーの活用に必要な焦点が当てられたプロセスでした。これをどのように実装し、全世界的な問題解決につなげていくかが今後の重要な論点になります。

## 4. 第 7 回世界水フォーラム これからの視点



今回ホスト国・韓国(左)と、次回ホスト国・ブラジル(右)が堅く握手

急速に進む都市化と気候変動によりもたらされる水の変化とこれに伴う危機に直面している現在、安全と持続性に配慮した強靱なシステムの構築と水環境汚染を招かない対策の実行が、長期的な投資効率を高めるために不可欠な視点です。

第 7 回世界水フォーラムでは、主要ターゲットとなる SDGs の策定、COP21 へのアプローチに向けて、投資の必要性を政治意思に入れ込むこと、そして長期的視点に立った効率的な投資を図ること、これらの視点に立った包括的アプローチの必要性が確

認められました。

長年日本が提唱してきた防災の主流化、予防保全という考え方が、各宣言に盛り込まれていることに、注目したいところです。

十分な水の確保と安全な水の供給、衛生へのアクセス、そして水災害に対する事前対策そのものが持続可能な開発に資するという認識を、国際的に共有していくことが一層求められると言えるでしょう。

## 5. 水災害の防災・減災へロードマップ案を提示



水災害・リスクマネジメント国際センター(ICCHARM)などは17日、水災害に関する7つのセッションを統合したテーマプロセス「変化への対応：防災、減災に向けたリスクと不確実性のモニタリング」を開催し、各国の国際機関や学識者らが各セッションの成果を基に今後の取組み目標などを示した「実行ロードマップ(案)」について議論を行いました。案では「リスクマネジメントに向けたガバナンスの強化」「リスク低減にむけた投資」など4項目を目標に、各関係者の取組みを定期的に集約し情報共有を行うことなどが盛り込まれています。なお、同プロセスの意見を

踏まえた最終的なロードマップは5月中頃の公表を予定しています。

## 今日の人

水資源機構  
理事 長  
甲村謙友氏



アジア太平洋地域プロセスの日中韓水資源フォーラム等の会議に登壇し、わが国の災害教訓をもとにしたインフラのあり方について説明しました。強調するのは3月に仙台で開かれた第3回国連防災世界会議の成果に示された「防災の主流化」です。「生命と財産を守り、将来的なインフラ投資を最小限にするには予防保全対策が不可欠」と日本の経験を世界に発信しています。今回のフォーラムの成果を尋ねると「議論の後の実行が大切です」。視線はすでに未来を見据えています。

## ■日本水フォーラムからお知らせ

第7回世界水フォーラム報告会(仮称)を開催します。

日程：2015年6月24日(水)

場所：東京都中央区銀座

詳細等は、ニュースレターやウェブサイト等でご案内予定です。

第7回世界水フォーラムに向けた準備会合の様子は[こちら](#)からご覧頂けます。

日程：2015年2月20日(金)

場所：衆議院第一議員会館

発行：特定非営利活動法人 日本水フォーラム

〒103-0015 東京都中央区日本橋箱崎町5-4 アライズ第2ビル6階 URL: <http://www.waterforum.jp>

取材協力：日本水道新聞社 東京都千代田区九段南4丁目8番9号 日本水道会館1F URL: <http://www.suido-gesuido.co.jp/>

※この速報は、日本の皆様に、世界水フォーラムの議論の内容や、日本の関係者の皆様の活動をお伝えするために、日本水フォーラムがとりまとめているものです。

内容は、速報暫定版のため後日修正されることがあります。発行予定は予告なく変更することがあります。